

2024年 さわやか通信  OWLS NEWS

 つちや  品子

- 2024年 復興大臣就任1年特別号
- 編集・発行：自民党埼玉県第十六選挙区支部
- お問い合わせ先：春日部市粕壁東2-3-40グレースヒル橋本101
- TEL:048-761-0475 FAX:048-763-3475 e-mail:otayori@owls.jp WEB:www.owls.jp/shinako
- 土屋品子オフィシャルサイト・Facebook・X (旧Twitter) ・選挙ドットコムページはこちらのQRコードから！



## 東日本大震災からの復興・創生、その先へ

復興大臣・福島原発事故再生総括担当の職責を担ってから、約1年が経ちました。復興大臣として、皆さまにお伝えしたい東日本大震災について、また被災地の現状や重視する復興への取り組みなどについて、そして政治家を志した動機などが自民党が毎月発行しています総合女性誌『りぶる』2月号に掲載されました。そのインタビューを再掲載しますので、ぜひご一読ください。



Special Interview

つちやしなこ  
土屋品子 復興大臣／福島原発事故再生総括担当

### 東日本大震災からの復興・創生、その先へ

土屋品子復興大臣／福島原発事故再生総括担当に東日本大震災のこと、被災地の現状や重視する復興への取り組みなどについて伺いました。また、土屋復興大臣の素顔も紹介します。

取材日：令和5(2023)年12月7日

りぶる  
は自民党が発行する、自民党が取り組む政策・ビジョンについての議員インタビューやコラム、女性局の活動、そして暮らしに役立つ情報などが載る月刊誌になっております。

## つちや品子プロフィール

春日部市在住。聖心女子大学を卒業後、香川栄養専門学校で学ぶ。平成8年総選挙で初当選。衆議院議員8期目。外務大臣政務官、環境副大臣、厚生労働副大臣、衆議院外務委員長、消費者問題に関する特別委員長、自民党では副幹事長、政務調査会副会長、外交部会長、広報戦略局長、総務会副会長、女性活躍推進本部長、食育調査会長を歴任。令和元年女性政治指導者(WPL)サミット日本実行委員長として、G20大阪サミット参加。

**現場主義に徹し、被災者の生の声や思いを拾う  
福島復興・再生、東北復興の総仕上げを**

大臣就任の際、岸田文雄総理からどのような声を掛けられましたか。

土屋 「被災地に寄り添いつつ、各府省庁の縦割りをなくし、現場主義に徹したきめ細やかな対応で福島の本格的な復興・再生、そして東北復興の総仕上げに全力で取り組むように」との指示をいただきました。

就任翌日には早速、福島県の内堀雅雄福島県知事を訪問。その後も積極的に岩手県、宮城県、福島県の被災地に赴き、地元の方々の生の声や思いを拾えるよう努めてきました。

大臣に就任されて変わったことは何ですか。

土屋 緊張感の度合いです。復興ならびに福島原発事故再生総括の職務を拝命し、責任の重さを今までの何倍も感じています。

大臣に就任して約3カ月(取材当時)。とにかく忙しくて、フリーの時間も運動する時間もほとんどありませんが、わが国の明るい未来を見据えて、力の限りを尽くそうという気持ちが日ごと増えています。

東日本大震災が発生した当時は、いかがでしたか。

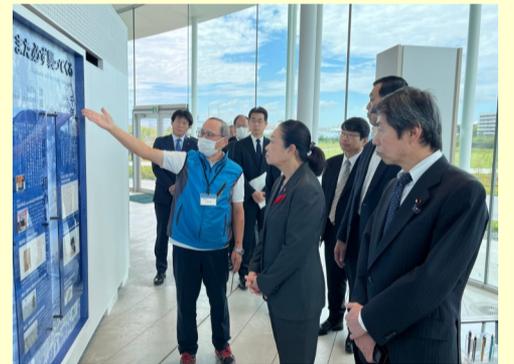
土屋 東日本大震災から約1カ月後、水や食料を車にたくさん積んで宮城県の仙台市と気仙沼市に住む友人を見舞いに行きました。応急復旧したばかりの高速道路を降り、海岸に向かって車を走らせると、想像を絶する惨状が次々と目に飛び込んできて。がれきで埋め尽くされた海岸や船が突き刺さったビルなど、あの光景は今でも心に深く刻まれています。



23. 9. 13 初閣議にて



23. 9. 14 福島県の内堀知事と意見交換



23. 10. 4 「みやぎ東日本大震災津波伝承館」



23. 10. 7 福島第一原発視察

私は平成8(1996)年に衆議院議員に初当選してから、4期連続で当選しましたが、平成21(2009)年の総選挙で落選。東日本大震災が発生した時は、いわゆる「浪人中」でした。しかし、一個人として被災者のためにできることはないか、被災者の力になるにはどうすれば良いのかを、常に考えて行動してきました。こうした経験も生かしながら、被災地の自立を促し、地方創生のモデルとなるような「復興・創生」の実現に向けて、全力でまい進してまいります。

**心のケアなど、きめ細やかな対応を重視**

**国内外にALPS処理水の安全性を発信**

被災地の現状について教えてください。

土屋 東日本大震災は、未曾有の複合災害でした。地震・津波被災地域の復興は着実に進んでいる一方で、原子力災害被災地域においては、今後も中長期的な対応が必要な状況となっています。

震災直後には、日本国内で約47万人が避難を余儀なくされました。その後、災害公営住宅の建設や復興まちづくりなどが進み、避難者数は年々減少しています。しかし、原子力災害被災地域では、避難指示がいまだに継続している帰還困難区域があります。帰還困難区域の避難指示解除に向けた取り組みを加速化させるとともに、全ての地域で生活が再開できるよう覚悟を持って臨んでまいります。

特に重視したいとお考えの取り組みを教えてください。

土屋 被災者が直面する課題はさまざまであり、社会情勢によっても大きく変化します。地震・津波被災地域で、これから特に重視しなければいけないのは「心のケア」。被災者の中には、震災時の嫌な記憶や感情が何度もよみがえり、今もつらい思いをされている人がたくさんいらっしゃいます。こうした心身の不調やストレスを少しでも軽減・改善できるよう、精神的なケアや健康面のサポートを進めてまいります。

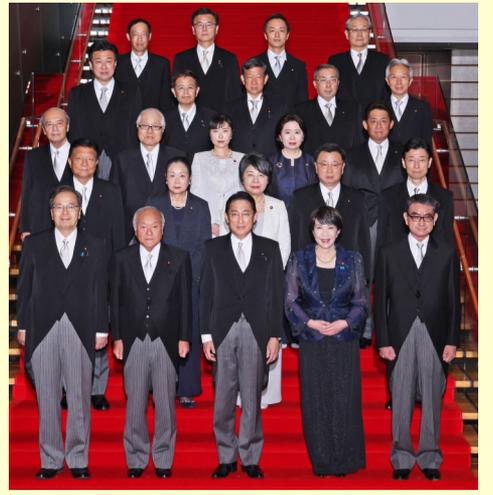
原子力災害被災地域では、帰還・移住等を促進するとともに、生活再建に向けた取り組みに注力します。また、ALPS処理水の海洋放出における風評対策に全力を尽くします。令和5(2023)年8月24日に海洋放出を開始したALPS処理水については、現時点で魚価の大幅低下など、国内において大きな風評影響が生じていないと報告を受けています。これは政府による科学的根拠に基づいた情報発信が国民に届いた結果であると理解しています。今後も気を緩めることなく、国内外に安全性を伝えてまいります。また、ALPS処理水を取り扱う東京電力に対しては、引き続き高い緊張感を持って臨むことを求めました。

このALPS処理水の海洋放出について、私は海外での風評影響を懸念し、大臣就任前から国際的な場で安全性を説明してきました。海洋放出直後の8月28日と29日には、日本カナダ友好議員連盟およびカナダ日本国会議員連盟の総会に出席し、ALPS処理水は国連の専門機関であるIAEA(国際原子力機関)が、「ALPS処理水の海洋放出に対する取り組みは、関連する国際安全基準に合致しており、海洋放出は人および環境に対する影響は無視できるほどである」と包括報告書で結論付けていることなどをしっかりと伝えてきました。

その後、駐日カナダ大使館の皆さまは、福島で取れたヒラメの刺し身などをおいしそうに食べている様子をSNSにアップ。そこには「ALPS処理水の海洋放出は安全であると確信しています」というメッセージが添えられていました。ALPS処理水と海洋放出に理解を示してください、しかも安全性を世界に発信していただき、本当にありがたかったです。

令和5(2023)年4月に設立された福島国際教育研究機構(FIREI・エフレイ)について教えてください。

土屋 福島県浜通り地域等の新たな産業基盤を構築するための「福島イノベーション・コースト構想」をさらに発展させ、司令塔となる中核的な拠点として、国が設立した特別の法人です。ロボット、農林水産業、放射線関連などの五つの分野で研究開発等を行い、わが国の産業競争力を世界最高の水準に引き上げ、経済成長や国民生活の向上につなげていくことを目指しています。浜通り地域等にはす



出典：首相官邸ホームページ



復興大臣

23. 9. 13 大臣室にて



23. 11. 23 発見！ふくしまお魚まつり

PRしています。  
被災地を訪れて味わうもよし、ご自宅でお取り寄せするもよし、イベントに出掛けるもよし。また、東北の食材を使ったお弁当を全国展開で販売するコンビニ等もありますので、被災地支援にご協力をお願いいたします。

でに多くの研究施設が立地しており、それらの取り組みに横串を刺し、司令塔としての機能を發揮していただくことに期待しています。

F R E I が担うのは、たくさんの方の行政機関等が連携したプロジェクトです。国の威信をかけて、絶対に失敗はできません。復興庁がリーダーシップを發揮し、世界に冠たる「創造的復興の中核拠点」になれるよう、行政機関等との調整、とりまとめに責任感と緊張感を持って奔走しています。

### 震災の記憶や教訓を風化させてはいけない

### 被災地の農水産物を食べて、応援を

東日本大震災の教訓を次世代につなぐには何が大切ですか。

土屋 震災の記憶を風化させないことです。

岩手県、宮城県、福島県内には、東日本大震災で起こったことや復興への歩み、被害を減らすために何ができるか等を伝える、伝承施設が数多くあります。先日、石巻市の「みやぎ東日本大震災津波伝承館」、陸前高田市の「東日本大震災津波伝承館」等を視察し、あらためて自然災害の脅威と、震災の教訓を次世代に引き継ぐことの大切さを実感しました。『りぶる』読者の皆さまもぜひ、被災地に点在する伝承施設を訪れ、そこで見たこと、感じたことを一人でも多くの人に伝えてください。東日本大震災との接点を常に持ち続け、災害への備えにしていただけると、うれしいです。

国民にできる、おすすめの被災地支援はありますか。

土屋 例えば、食べて被災地を応援するのはどうでしょう。被災地には、おいしい農水産物が豊富にあり、その魅力を復興庁も積極的に

### 世界の女性リーダーから刺激を受けて政治家に選挙ポスターや街宣車など、全て自分で用意

政治家を志した理由を教えてください。

土屋 父は参議院議長や埼玉県知事を務め、自民党最高顧問も経験した土屋義彦で、外国の要人とも交流がたくさんありました。私も私設秘書として父に同行し、英国のマーガレット・サッチャー元首相、アイスランドのヴィグデイス・フィンボガドッティル元大統領などとお会いしたことがあり、世界で活躍する女性から刺激を受けたことが政治家になろうと思ったきっかけです。1970年代、90年代にかけて、外国では女性リーダーが台頭していました。しかし、日本は女性の国会議員が少なく、こうした現状を少しでも変えたかったのです。

そして、幼少期から暮らす春日部市が属する埼玉県第13区から立候補しましたが、父が猛反対して。当時、父は埼玉県知事を務めており、県民から「知事が娘の選挙区を優遇するのではないか」と疑念を抱かれることを心配して、「立候補するなら勘当だ」と大げんかになりました。

私は初めての選挙に、人生を懸けて臨みました。必要なポスターや街宣車などは、全て自分で用意。父が反対すればするほど、逆にファイブが湧いてきて、熱い選挙戦を戦い抜き、当選することができました。この時、私を応援してくださった皆さまには、感謝の気持ちでいっぱいです。



当選後、埼玉県第13区選出の衆議院議員として県知事、つまり父にあいさつに行きました。その時に父から「今まで反対して悪かったな。当選したからには、しっかりやってみてもらわないと困るから、これからは応援するよ」と言われ、絶句したことを今でもはつきりと覚えております(笑)。

### 「食を通じた健康」をテーマに、精力的に活動人と人とのつながりや絆が、復興の原動力に

政治家になる前の職業を教えてください。

土屋 料理研究家とフラワーアーティストです。東京の渋谷駅前のカルチャースクールで、料理とお花の教室をそれぞれ5クラス受け持っていました。

私は、国民が健康で長生きできることが最大の幸せだと考えています。生涯の健康を保つには栄養に関する正しい知識が不可欠なので、栄養士の資格を取得。料理教室では作り方だけでなく、必ず栄養学をセットにして教えていました。

政治家になってからは「食を通じた健康」をテーマに、精力的に活動。食育の推進に重要な役割を担う栄養教諭制度の導入や食育基本法の成立などに注力してきました。

お忙しい毎日の中で、楽しみにされていることは何ですか。

土屋 「食をすること」です。同時に、園芸も楽しみ。庭でレモンの木やブルーベリーの木を育て、その実を使ってさまざまな料理に挑戦しています。秋から冬にかけては庭になった柿で、干し柿をたくさん作ります。いろいろな作物を育てて、おいしく食べるのが好きですね。

また、YouTubeで料理の動画を配信しています。先日は、福島の港に水揚げされた、「常磐もの」を食べて被災地を応援していただきました。この思いを込めて「イワシのかば焼き風どんぶり」を作りました。簡単でとってもおいしいので、ぜひ作ってみてください。



「しなチャンネル」では活動報告や季節の料理等を配信しています！

「イワシのかば焼き風どんぶり」も動画を見てぜひ作ってみてください。とってもおいしいです！



最後に『りぶる』読者にメッセージをお願いいたします。

土屋 被災地を視察しながら、つくづく感じるのは女性たちの力強さです。女性グループがリーダーとなって地域の人々を引っ張ったり、津波の被害を受けた旅館のおかみさんが新たに店を始め、人と人をつないだり。逆境に屈することなく、エネルギーに活動する女性の底力は本当に素晴らしいと思います。『りぶる』読者の皆さまも、日頃の活動で女性の底力を存分に発揮していただければと思います。

また、東日本大震災による避難者は、いまだに約3万人います。お住まいの地域に避難生活を余儀なくされている人がいましたら、温かい声を掛けてください。人と人とのつながりや絆が、復興の原動力になります。

「東北の復興なくして日本の再生なし」との強い思いの下、職務を全うしてまいりますので、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



24. 9. 5 福島県南相馬市のあすびとパーク



23. 12. 18 福島ロボットテストフィールド



24. 9. 14 ふたばワールド2024



24. 4. 24 千年希望の丘相野釜公園にて献花

## つちや品子 活動報告 2024年秋

## 新しいチャレンジを後押し

福島県葛尾村にある「佐久間牧場」に農業視察で伺いました。この牧場では、葛尾村が国の福島再生加速化交付金を使い、約23億円で整備された搾乳ロボットなどの設備があります。このロボットを導入したことで生産効率が高まりました。

現在、全国でバター不足や、ヨーロッパなどからの輸入チーズの価格が高騰している中で、国内でのチーズ作りを進めている農家が増えております。福島でもそのような乳製品の開発を進めていける可能性があるなど肌で感じました。実験的に作っているチーズをいただきましたが、とても美味しく、商品化を待ち望んでおります。

このように復興を通じて新たなチャレンジをする人たちを後押ししていくことで、復興を加速させていきたいと思っております。



24. 7. 4 福島県「佐久間牧場」にて



24. 7. 28 三陸鉄道の前で



24. 7. 28 「パティスリーフィエルテ」にて

## 風化させないために

今後起こりうる災害などに備え、東日本大震災の記憶と教訓を後世に伝承していくことは非常に大事なことです。簡単なことではありません。そこで岩手県で行われている様々な取り組みをご紹介します。

三陸鉄道では、震災学習列車を運行し、社員による震災の記憶と教訓を後世へ伝える取り組みをされています。視察時に久慈駅から田野畑駅まで約1時間の距離を乗車し、ガイドの方に説明をしていただきました。学生の皆さんも、学習の題材として震災学習列車を活用しているそうです。そして海外の方からも興味を持っていただいているということですので、観光業などと協力しながらうまく利用することで、震災の教訓を世界中に広めることができるのではないかと考えます。

また田野畑村で訪問した洋菓子店「パティスリーフィエルテ」のパティシエ、高橋さんは大津波語り部としても活動されていて、高校生のときに体験した震災について語るガイドとして、若者目線で震災の記憶が風化されないよう取り組まれています。

被災地域では、様々な形で震災の記憶を風化させないような活動を進めています。たくさんの方に興味を持っていただけることで、私たちの思いが、次世代に伝わっていくはず。引き続き、皆さまのお力添えをよろしくお願いいたします。